

令和5年 第8回

四日市市教育委員会会議案

関係資料

日時 令和5年5月24日 午前9時30分～

場所 四日市市役所 9階 教育委員会室

令和5年 第8回 教育委員会会議 議事

○議 案

議案第22号 工事請負契約の締結について

—博物館受変電及び発電機設備更新工事— …………… P 3/10

○報 告

令和4年度の教育委員会における点検及び評価について …………… P 6/10

令和4年度繰越事業について…………… P 8/10

いじめに関する調査報告について…………… 別冊

令和4年度 第3回四日市市教育施策評価委員会 概要(報告)

1. 概要

【視察テーマ】 本市の教育施策について
「主体的・対話的で深い学びの実現」(基本目標1 確かな学力の定着)に係る
施策の実施状況について

- (1) 日時 令和5年4月28日(金) 9時30分～11時15分
- (2) 視察場所 中央小学校
- (3) 目的 四日市市学校教育ビジョンに基づく施策の展開について評価を行う
- (4) 出席者 <四日市市教育施策評価委員> 織田 泰幸(三重大学教育学部教授)
高田 晴美(四日市大学総合政策学部教授)
<中央小学校> 長崎 雅子(学校長)、太田 貴志(教頭)
<教育委員会事務局> 前田教育監、森教育総務課長、草川指導課長、
伊藤指導課課長補佐、教育総務課政策G

(5) 報告

①指導課より(※資料参照のみ)

- 第4次四日市市学校教育ビジョンに係る取り組みについて
- ・第4次四日市市学校教育ビジョンにおける位置付け
基本目標1 確かな学力の定着 主体的・対話的で深い学びの実現について
 - ・新教育プログラムに基づく取り組み
 - ・四日市市における学力向上の全市的な取り組み
 - ・令和4年度学力・学習状況調査結果分析 等

②学校より

- 学校づくりビジョンに基づく取り組みについて
- ・重点として「確かな学力の定着」、「豊かな人間性の育成」などを掲げ、小規模校としての強みや広く豊かな校舎スペースを活かした教育環境の充実に取り組んでいる。
 - ・「文章を正確に理解し、相手に適切に伝える子ども」をめざすため、言語活動の充実による読解力・表現力の育成に取り組んでいる。
 - ・学力調査において、国語の因果関係の問いに関する正答率が非常に高かったため、算数での解法の記述問題をはじめ、他教科においても応用できるようにさらなる工夫を行っていく。

(6) 教育施策評価委員からの主な意見及び評価(※評価は下線部)

【主体的・対話的で深い学び】

- ・単に答える、発言するというわけではなく、誰かの発言に対してコメントをする能力も、対話的な学びには必要であり、このような工夫も大いに取り入れていくとよいと思われた。

【論理的思考力の育成】

- ・ 国語の授業では文章を論理に正しく読み解くことにフォーカスされていた。大学では学生が、筋道を立てて解法を記述できるようになるにつれ、国語の文章が読めるようになったという例もある。論理的思考力について他教科との間でも相互に関係していると実感している。国語で培った力が他の教科へ波及できるよう取り組んでほしい。
- ・ 先生の子どもに対する投げかけ方が思考整理しやすいように工夫され、話すことが苦手な子どもに対しても配慮がなされていた。
- ・ 1つの質問につき、ある児童が答えても、教員はすぐにはそれが正解か否かをコメントせず、他の児童にさらに発言を要求していた。そうすると児童も、他の考えもありうるかもしれない、こんな考えはどうだろうと、追及していく姿勢になる。Q&Aのような、質問と答えが1対1対応しているという浅い学びに陥ることを防ぎ、単に正解さえすればいいと思わせるのではなく、答えに行きつくまでの思考や、答えが複数ありうること、いくらでも深掘りできること、それらが絡み合っている可能性があることにも気づかせるような試みをしていると思われた。

【タブレット端末の活用】

- ・ タブレットを使用する学習に関しては、一部、タブレットであるがゆえのやりにくさも見受けられた。書き込んで消すなどが何度も気軽にできるのはタブレットの優位性ではあるが、一方で、文字を記入する課題をさせている場面では、「うまく字が書けない」「漢字が書きにくい」という児童の声があったことから、紙で行った方がストレスがなくて良さそうに思われた。

【学びの系統性】

- ・ 6年生の授業を観て先生から与えられた質問に対して自然に学び合う姿にこれまでの学校側の積み重ねを感じた。

【PDCA】

- ・ 校長先生自身が児童の学力の現状把握に努め、今後の改善策を考えるために、すぐに分析に取り組もうとする姿勢が、未来の学校を創造する一歩になると感じた。

<委員からの提言等>

- 昨今では chatGPT など質問に対して答えてくれるような AI システムが台頭しているなか、長い目で見たときの学校教育の持つ意味を考えなければならない。板書をノートに取ることや手を動かして計算するなどテクノロジーが進歩するにつれて機械にとってかわられ、どのような意味があるのか問われる。
- 小中高ではとりわけ答えはひとつという感覚があるため、途中経過を考えない傾向があるように思う。(大学のレポートで) コピーアンドペーストをしてしまう原理のひとつに結局どこかには答えがあると思いついでいるからではないかと思っている。答えを自分で作っていくことが国語以外の科目でも大切であり、その仕掛けを考えていく必要がある。